

平成 31 (令和元) 年度 自己評価表

鳥取県立米子白鳳高等学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>挑戦の精神をもって何ごとにも取り組み、豊かな人間性と 社会の発展に進んで貢献する有意な人材を育成する。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 学ぶ意欲の喚起・育成 2 心豊かに他と共生する態度の育成 3 社会的な自立に向けた支援</p>
---------------------------	--	----------------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (10月)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学ぶ意欲の喚起・育成	○授業のユニバーサルデザイン化	○授業を大切にしている態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮の観点を取り入れた授業の展開 ○授業のための全職員による生徒情報の共有 ○支援が必要な生徒への個別指導	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮についての説明を全職員に行った。 ○支援員等の効果的配置を工夫し、個別指導を充実させている。 ○授業の出席率は昨年比で改善傾向にある。	B	○伝え方を工夫するなど、ユニバーサルデザイン・合理的配慮に基づいた授業をさらに推進する。 ○さらに情報を共有し、個別の支援・声かけを継続し、授業への動機付けを行う。
	○ICT活用教育の推進	○ICT化の進展に伴い、情報活用能力の育成が必要である。	○ICTの活用ができる。	○ICT活用のための教員研修 ○各教科でのICT活用の推進 ○NHK高校講座でのICT活用	○タブレットは昨年に引き続き多くの先生が授業等で利用されている。	B	○iPadを含めICT機器の活用を引き続き推進し、ICT機器のスキルアップを図る。
	○生徒理解と環境整備	○生徒のおかれた状況を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○生徒が、安心して学校生活に取り組みすることができる。	○個人面談・Hyper-QUの実施による生徒理解と個別支援の充実 ○SC・SSW・白鳳サポーター・特別支援教育支援員との連携	○中学校からの引継、「合理的配慮」申請による支援会議、Hyper-QUを実施し生徒理解を深めた。 ○各課程会議での情報共有やSC、SSW、白鳳サポーター等との情報共有を行った。 ○精神科学校区による教育相談を実施した。	B	○共有した情報をもとに、支援方針を引き続き検討していく。 ○中学校からの引継や「合理的配慮」申請による支援会議を活用し、個別支援をさらに充実させる。
2 心豊かに他と共生する態度の育成	○基本的生活習慣の確立	○挨拶、言葉遣いなど基本的生活習慣を身につける取組が必要である。	○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いを行うことができる。	○遅刻・欠席の防止指導 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導 ○健康管理指導の推進	○時間厳守、挨拶、マナー等について担任を中心に指導し、改善傾向にある。 ○挨拶運動、ごみ拾い等、計画どおり実施できている。 ○健康管理の意識には個人差がある	B	○生徒が自発的に挨拶し、時間を守り、健康的に学校生活が送れるよう、積極的な日々の声かけ、担任と関係職員との連携を継続して行う。
	○自己理解・他者理解の促進	○人間関係の育成をする環境づくりが継続的に必要である。	○生徒同士の信頼関係を醸成し、お互い尊重し合っけてクラスが居心地の良い場となる。	○生徒理解のための教員研修の実施と充実 ○エンカウターの実施 ○性に関する指導や人権教育指導の充実	○計画どおり教員研修を実施し、教員の生徒理解、生徒の自己理解が深まった。 ○年度当初の特別時間割で新生入生に集中的にエンカウターを実施し、居心地のよいクラス環境作りに努めた。 ○計画どおり性に関する指導や人権教育指導の事業を実施している。	B	○生徒の人間関係を引き続き育成する。 ○今後もエンカウターを実施し、安心できる居場所としてのクラス作りを行う。
	○通級による指導	○人との関わり方やコミュニケーションを特に苦手とする生徒がいる。	○対象となる生徒が自分自身を認めながら自分について理解し、自らの課題に適切に対応していくことができるようになる。	○生徒ひとりひとりの課題に応じたきめ細かい指導 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かす ○校内支援体制の整備 ○通信制課程にも通級による指導を導入するための環境整備	○通級も含めた特別支援教育充実事業を計画どおり実施し、生徒の満足度も高かった。	B	○通級における指導に関する調査・研究をさらに進め、通級による指導を充実させる。また通信制課程においても来年度実施に向け計画していく。 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かすために、教職員への周知の在り方を検討する。
	○体験活動とおとした社会性の育成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高める必要がある。	○諸活動において、自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。	○定通充実事業(チャレンジものづくり体験・テーブルマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア)の検証と発展 ○アルバイト、ボランティア活動の推進	○体験的活動を計画どおり実施し、生徒の社会性が育ち、いきいきと学校生活が送れるようになってきている。	B	○今後も引き続き体験活動をおとして、生徒自ら進んで行動できるよう、事業を実施する。
3 社会的な自立に向けた支援	○キャリア教育の充実	○社会の変化に対応するため、進路意識を早期に向上させる必要がある。	○進路に対する意識付けと自分の適性にあった進路実現を達成することができる。	○就職・進学講演会の開催 ○個別面談や相談の実施 ○学年団・CAと連携した進路指導 ○インターンシップの推奨	○個別面談や相談を基本にして、学年団及びCAと連携した進路指導を実施し、進路の意識付けと個々の適性に合った進路実現を達成しつつある。	B	○個別面談や相談をいっそう充実させる。
	○「産業社会と人間」「総合的な探究・学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて徐々に身につけている。	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習成果発表会の実施 ○面接・着こなし講習会の実施	○自立に向けた活動を計画どおり実施し、プレゼンテーションなど自己表現力が身につく、卒業後の進路目標などが定まりつつある。	B	○テーブルマナー講習会・学習成果発表会等、自立に向けた活動を計画どおり実施する。
	○関係機関との連携	○支援が必要と思われる生徒について、関係機関との連携が必要である。	○個々の生徒が、それぞれ進路相談および進路活動の充実により進路実現を図ることができる。	○上級学校・事業所見学の実施 ○ハローワーク、若者サポートステーション、障害者就労・生活支援センターとの連携	○事業所見学の実施やハローワークとの連携を基にして、進路活動の充実を図った。その結果、個々の生徒の支援となっている。	B	○若者サポートステーションや障害者就労支援機関とのいっそうの連携をはかる。
4 学校業務改善に向けての取組	○会議等の時間短縮と見直し	○会議が長時間になることがある。また、会議が重なる時期がある。	○必要な会議で効率よく協議することができる。	○会議の時間設定と遵守 ○会議の持ち方の工夫 ○会議に向けて関係機関の事前の連携	○終了時間を決め、効率よく会議をすることができた。	A	○関係部署と連携しながら効率のよい会議にしていく。
	○長時間勤務の解消	○学校行事などにより長時間勤務になる時期がある。	○月45時間超勤務者がいない。	○時間外勤務実績入力の呼びかけ ○衛生委員会での時間外労働時間集計結果の周知と超勤者の声かけ ○定時退勤日・定時退勤週の実施	○月45時間超勤務者は9月までで延べ3人だった。 ○超勤者への声かけ、定時退勤日・定時退勤週は実施できている。	B	○引き続き声かけをしていく。 ○後期も定時退勤日・定期退勤週を設定する。
	○働く上で効率のよい職場環境づくり	○職員室など整理が必要などところもある。共有フォルダもデータが整理・整頓がいきとどいていない。	○快適な職場環境で業務が効率的にできる。	○校内安全点検の実施と破損箇所等の迅速な改善 ○教職員の整理・整頓意識の啓発 ○共有フォルダの整理	○定期点検のほか台風後の安全点検を実施、破損箇所については迅速に対応した。 ○職員室は比較的整頓されている。 ○共有フォルダはほぼ未整理である。	B	○今後とも破損等が起こった場合迅速に対応していく。 ○共有フォルダの整理をしていく。

評価基準 A: 目標を達成している B: ほぼ計画どおり推進している C: 取組がやや遅れている D: 一層の取組が必要である E: 目標・方策の見直しが必要である

<100%>

<80%程度>

<60%程度>

<40%程度>

<30%以下>